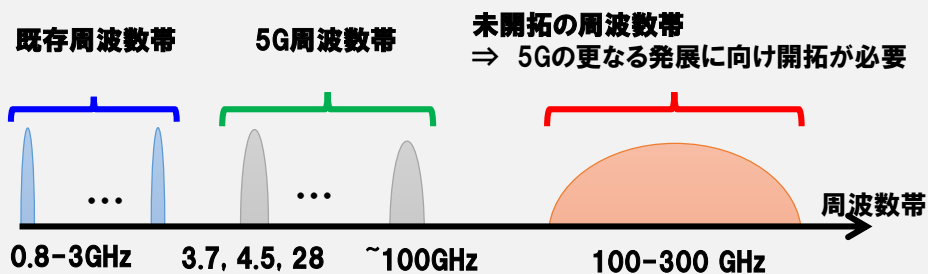


5Gのその先へ テラヘルツチャネルサウンダと伝搬特性



新たな高周波数帯の開拓



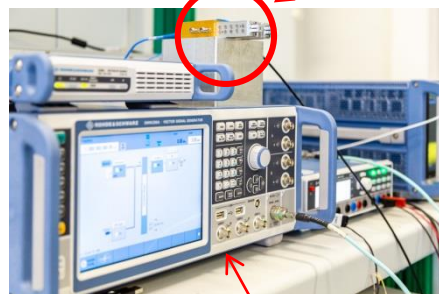
テラヘルツ伝搬に影響与える要素



テラヘルツ帯における反射、散乱特性をリアルタイム解析

テラヘルツチャネルサウンダ @300GHz

300GHz transceiver frontends



R&S SMW200A

提供価値

- 高速大容量
- 低遅延
- 多数端末接続

構想/研究段階

- 5Gの更なる発展に向け、本装置により、テラヘルツ帯を利用した超広帯域・超高速通信を行う移動通信システムの通信性能やチャネル特性をリアルタイムに評価することができます。

概要

- テラビット級の高速大容量化に向け、150GHz帯および300GHz帯の超広帯域テラヘルツチャネルサウンダを開発しました。
- 本装置を用いてテラヘルツ帯における基本伝搬特性や、適用条件および好適な周波数帯等を解明するため、様々な環境における伝搬測定や解析を行っていきます。

コラボレーションパートナー

ローデシュワルト株式会社とはテラヘルツ帯利用に向けて基地局・端末の通信性能評価技術や伝搬特性の測定と解析を、フラウンホーファー・ハインリッヒ・ヘルツ通信技術研究所にはテラヘルツデバイスの提供にご協力頂きました。

